

歴博をあるく

展示に見る舟・船

広報部会

四方を海に囲まれ、多くの川がある我が国の交通手段としての「舟・船」はどの様に発展し、どの様に展示されているのでしょうか。

その展示は約3000年前の千葉県匝瑳市で出土した独木舟(第1室)から始まります。舟材は削るのに都合のよい木質の柔らかいトチノキ、センノキ(ハリギリ)、ナラノキ、ヤチダモなどに限られていたようです。縄文時代は竹割型であった船型は弥生時代以降鯉節型の刳舟になったようです。



第1室 独木舟

中世には、帆や舵を備えて瀬戸内を航行する貨客船に発展し、海外貿易を行う御朱印船が部屋一杯に展示されています。また同時代に大海を航海したオランダのスヒップ船の模型も展示されています。



第2室 御朱印船

第3室の近世には、江戸日本橋界隈の模型に数多くの屋根舟や猪牙舟が展示されています。



第3室 猪牙舟

また、紅花や海産物などを日本海航路で運んだ北前船「享和丸」があります。



第3室 北前船「享和丸」

民俗の部屋には、沖縄西表島などで漁撈に使われているハリ一船、カツオ船や釣り船チヨロの他、盆の送りに流す精霊舟が展示されています。この精霊舟は、盆棚に使用した葦(よしす)に供物を巻いて帆をたて、船に仕立てます。石川県輪島市のほか、多くの地区で行われているそうです。



第4室 精霊船

第5室には、横浜波止場の模型があり、多くの貨物船などが展示されています。また利根川往来していた高瀬船は浅い川底に対応できる外輪船に代わり、第26通運丸のような外輪船は時代とともに鐵道に追われるようになりました。



第5室 第26通運丸

他に、絵や写真も沢山あります。皆さんも探して見てください。